

かめもり
12 甕森緑地環境保全地域



1 地域指定

- (1) 指定地域 甕森神社周辺一帯（潮来町）
- (2) 指 定 昭和55年3月31日（茨城県告示第524号）

2 保全計画の概要

(1) 指定理由

本地域は、潮来町の北部標高35メートル前後の上位面崖端部に位置し、北浦に面して釜谷集落に接している。

スダジイを優占種とする常緑広葉樹の群落にスギ、ヒノキが植栽されており、神社の西側にはタブノキなどが混生している。森林全体はそれほど大きくないが植物の種類は変化に富んでムベ、トベラが生育しているなど暖帯地方の様相をよく呈して良好な自然環境を形成している。

このため、本地域は茨城県自然環境保全条例第10条第1項第1号に規定する「樹林地が集落地と一体となって良好な自然環境を形成している土地の区域」に該当する。

(2) 自然環境の概要

ア 植 生

スダジイを優占種とする林内にはタブノキ、サカキ、ヒサカキ、ウラジロガシなどの常緑広葉樹にネズミモチなどが混生しており、一部にスギ、ヒノキの人工林がみられる。林床には、ヤブラン、ムベ、ヤブコウジ、フジ、キツタなどとシダ類にも恵まれイノデ、イノモトソウ、ヒメワ

ラビ、コモチシダなどもみられる。また、トベラ、ムラサキシキブ、キブシなど暖帯性特有の植物が多く変化に富んでいる。

特にサカキ、ムベの植生分布は、本県の北部が北限となっており、県内では自生地が少なく本地域のように生育もよく個体数の多いのが特徴といえる。また、イノデは、オシダ科のシダ植物でタブノキ林の下草として出現するもので、この種は、本県の北部を植生分布の北限としている。

イ 野生動物

スダジイを中心とする常緑広葉樹林と北浦に接していることから、特記するものとしてチョウ類のホソバセセリが確認されている。この種は、直射日光のあまり当たらない森林周辺や疎林内部で谷沿いや丘陵地にみられるもので、県内では少なく貴重なチョウといえる。また、アサマイチモンジは幼虫のときスイカズラ科の植物の葉を食べ、幼虫で越冬する。県内の分布は、中央部から北部にかけて多く産し、そのほかの地域ではごくわずかに産するのみである。

トンボ類の中ではオオアオイトトンボがあげられる。この種はアジアイトトンボに似ているが腹部背面の金属緑色部に白粉をおびない点で区分できる。県内における分布は太子町を中心に久慈川沿い、那珂川の戸戸周辺や利根川河口及び北浦、霞ヶ浦の周辺などの限られた地域に生息している。さらに樹木やその種類が多いことから昆虫、鳥類の動物相も豊富である。

(3) 自然環境の保全に関する基本的な事項

スダジイ、タブノキ、サカキなどの常緑広葉樹を中心にそこに生存する動植物を維持するため、自然環境の保全を図る。

このため、保全に必要な規制は自然環境保全条例の定めにより行う。

(4) 保全施設に関する方針

巡視歩道、標識、廃棄物処理施設、植生復元施設、病害虫防除施設、給餌施設、養殖施設等を必要に応じて設ける。

(5) 地区の指定に関する事項

本地域の区域は、次のとおりとする。

単位：ヘクタール

名称	位置及び区域	面積	土地の所有別面積	摘要
甕森緑地環境保全地域	行方郡潮来町大字釜谷の一部 (別図のとおり)	0.59	民有地 0.59	

総括表

単位：ヘクタール

区分	内訳			計
	国有地	公有地	民有地	
土地所有別面積	0	0	0.59	0.59

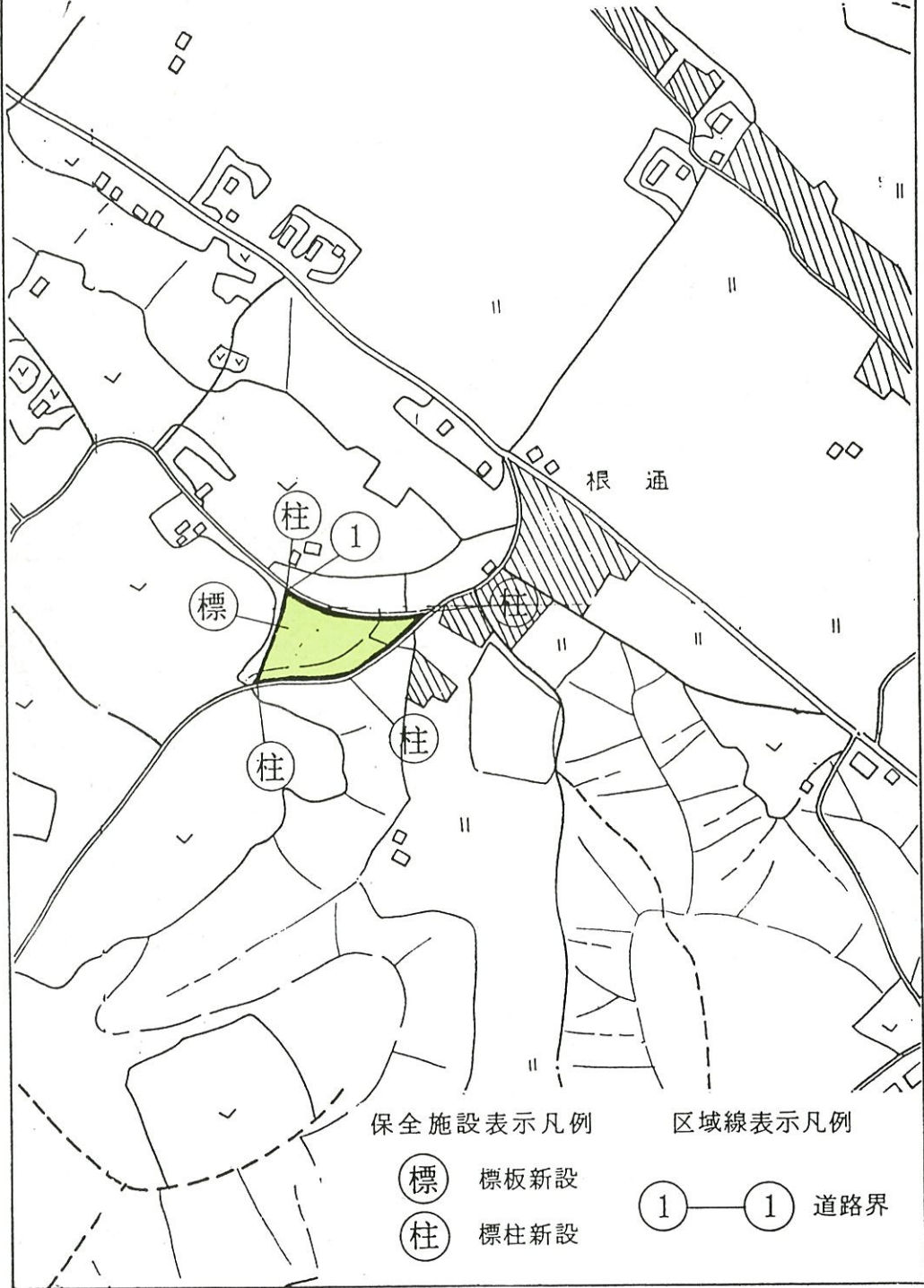
(面積は図上測定による概算値)

甕森緑地環境保全地域位置図



甕森綠地環境保全地域区域図

S = $\frac{1}{5000}$



保全施設表示凡例

- 標板新設
- 柱 標柱新設

区域線表示凡例

- ①—① 道路界